慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西郷南洲翁と副島蒼海伯と菅臥牛翁(一)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.2 (1927. 5) ,p.132(284)- 132(284)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0132

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

西郷南洲翁と副島蒼海伯と菅臥牛翁（一）

（一）臥牛翁（莊內藩士菅實秀）曰人皆西郷南洲先生の功業の盛んなるを讃美するも、予は之と異なり、その氣韻の高尚にして、直に堯舜を目標とし、克己の學を堅忍力行せられしを景慕するぞ。又曰予、西郷先生〳〵と仰慕するは、其の人、堯舜の道を眞直に蹈み行ふ人なれば、斯く尊敬するなり、左もなくば尊敬するに及ばざるなり。又曰、道を學ぶには西郷先生の敎の如く堯舜を手本とし、孔子を敎師とすべし、又、伊尹傳說の如き大賢人を常に眼前に見る如き精神を奮ひ起すべし、さやうの心は折々は出るものなれども兎角失ひ易い失ひたる時はこれにてはすまぬと奮勵すべし。

（二）臥牛翁曰、天下をも一攫みせんとの氣象肝要なり。其上濃かに身を顧るべし。何事も氣韻の至らざる所に業は決して行き屆かざるものなり。當時の學生能く洋學するも只洋書を讀むと云ふものにて、更に西洋一呑といふ氣象はあらずと思ふ。

（三）明治十年西南役の際、臥牛翁に、西軍（薩摩方）の前途を御問ひ申せしに、いつも、嘆せられ仰せられしは、先生（南洲）此度の擧は、道を直くして天下後世に示されしものならん。予（臥牛）未だ其所以を詳にせざるも力を量らず犬死するは先生に御心にあらざるべし。一人にても生き殘り斯道を後に傳へてこそ、先生に地下に見えても、善くこそ吾が志を知りたれと、喜ばれなん。